



クラブ運営の基本方針

2023-2024年度

会長 楠山 泰道

本年度RI会長ゴードン R. マッキナリー氏が「世界に希望を生み出そう」とRI方針「CREATE HOPE IN the WORLD」を掲げました。世界と自分自身の中に平和を築くための全てのロータリー活動の目標は、希望を取り戻す、希望を生み出すことにある。ロータリーが平和やメンタルヘルスのために活動し、世界に希望を生み出すよう呼びかけています。また、そのためには対話を通じて信頼を築くことが重要であると訴えています。

この講演のなかで、問題を抱える国で平和を推進し、紛争の影響を受けている人びとを助け、過去のリーダーたちが始めたイニシアチブを引き継いでいくよう会員に呼びかけました。また、世界の注目を集め、現在の期待をはるかに超える可能性を切り開いていくことを求めました。「私たちの目標は、破壊的な紛争から世界が立ち直れるように、希望を取り戻すことです。そうすれば、私たち自身のために持続可能な変化をもたらすことが可能となります」とマッキナリー氏は述べました。

ウクライナをはじめ紛争を抱えている国の人々をどう助けることができるか。国際ロータリーの会員である当クラブも積極的に協力していました。マッキナリー氏はさらに、新型コロナウイルスの世界的流行によって深刻化しているメンタルヘルスの問題の影響を受けている人たちに、ロータリー会員が希望を与えるべきだと述べました。多くの人が家族を失い、社会的つながりを断たれ、特に若い人たちの教育や育成が妨げられています。その結果、世界でメンタルヘルスの問題に直面する人が増えています。しかし、助けを求めることは弱さの表れであると考えられることが少なくありません。「真実から目をそむけることはできない」とマッキナリー氏。「助けを求めることは勇気ある行動です。健康と幸せにいたる道を求めることは、さらに勇気が要ることです」次年度以降、ロータリーはメンタルヘルスサービスの改善に取り組んでいくとマッキナリー氏は続け、ロータリーは会員と奉仕を受ける人の両方を支える組織として知られるべきだと述べました。「メンタルヘルスの専門家なら誰もが口をそろえてこう言うでしょう。ほかの人を助けることで、本質的に自分自身が助けられるのだ、と」しかし、今国内に目をむけると、社会的不安の背景には中国、北朝鮮をはじめとする不安定な世界状況に加え、ロシアの侵略と新型コロナウイルスの世界的流行から始まった感染症の流行、物価上昇による経済不安、高齢化による介護を含む認知症など、多くの不安の中に生きていることがわかります。このように国内外に不安と救済を待つ人が多くいることで、私たちは何ができるか考えていくときかと思えます。

平和と希望、とても難しいテーマですが願って止まないテーマでもあります。

【行動目標】

- 地域諸団体との連携・・・医療福祉関係、教育関係など（春光学園奉仕・献血）
- クラブの行動に繋がる地域社会貢献（チャリティコンサート・国際支援）
- 地域社会との情報の受発信（情報の収集、RC活動の広報）
- 時代の変化に適応する組織の醸成（介護・認知症などの取り組み）